

## 理事長挨拶



社団法人 大正琴協会理事長  
海部 俊樹

暑中お見舞い申し上げます。

会員の皆様には暑さに負けずご健勝のこととお慶び申し上げます。皆様方の日頃の当協会に対するご協力と、地域での熱心な大正琴普及活動に対し厚く御礼申し上げます。

さて、私事ではありますが、昨年6月に旭日章桐花大綬章をいただきました。顧みれば、内閣総理大臣任期中はもとより、衆議院議員初当選の1960年以来、約50年に亘り日本を誰もが夢と希望を抱ける国とすべく奮闘して参りました。

国の根幹である教育問題に取組み、国際的な視野に立っての青年海外協力隊の創設や、日本の地位向上と国際貢献を果たすための湾岸戦争における自衛隊派遣決断など、政治家として激動の半世紀でもありました。

そして、昨年12月には愛知県からも県の発展に貢献したとして、名誉県民顕彰もいただき、皆様に支えられた我が半生を改めて振り返る機会となりました。

大正琴も昨年は誕生100周年を迎え、当協会としまして昨年12月の総会で大正琴が発売となった9月9日を「大正琴の日」と制定したほか、今年2月には記念演奏会を盛大に開催することができました。

大正琴が100年間弾き継がれた陰には、私達の知らない多くの先人の大正琴に対する情熱があったことと思います。近年は愛好者が減少傾向にある大正琴ではありますが、皆様が先人に負けない情熱を持ち、今こそ指導者としてのリーダーシップを発揮して、大正琴新世紀を切り開いて参りましょう。

## 第39回通常総会議事録

1. 総会の種類 第39回通常総会
2. 招集年月日 平成24年5月7日
3. 開催日時 平成24年6月6日 午後1時00分から午後1時50分
4. 開催場所 名古屋市中区錦三丁目11番13号 名古屋ガーデンパレス
5. 出席社員の状況

議決権のある当法人社員総数	3 5 6 4名
総社員の議決権の数	3 5 6 4個
出席会員数(委任状による者を含む。)	2 8 4 6名
この議決権の総数	2 8 4 6個

6. 議長兼議事録作成者 副理事長 北林 豊
  7. 出席役員等
- |      |  |
|------|--|
| 出席理事 | 鈴木萬司、北林 豊、岩間昌一、北林 篤、佐伯恒司、徳竹悠美子、吉崎裕幸、今泉和久、岡本浩二、大木本正次、藤澤賢治、坂本佐智子、伊藤篤志、加藤 誠 |
| 出席監事 | 遠島敏行、丹羽正夫  |

8. 会議の目的事項並びに議事の経過の要領及び結果

### ①開会

定刻に、司会者の岡本浩二理事が挨拶。総務委員長岩間昌一常務理事が、開会を宣言。

### ②挨拶

北林豊副理事長が挨拶。

### ③議長選出

司会者が、議長選出方法を議場に諮ったところ司会者一任の声あり。よって、北林豊副理事長を本総会の議長としたい旨諮ったところ、全員一致をもって選出し、同氏は、これを了承し議長となった。議長は、事務局に出席状況の報告をさせた。議長は、正会員現在数の2分の1以上の出席があったので、本総会が成立した旨を述べた。

### ④議事録署名人選出

議長が、議事に先立ち議事録署名人2名の選出について諮ったところ、議長一任の発言があり、全員異議なく賛成したので、議長は、鈴木萬司名誉会長及び岡本浩二理事を指名し、これを議場に諮ったところ全員異議なく承認した。被選任者らは、いずれもこれを承諾した。

#### 第1号議案 平成23年度事業報告承認に関する件

議長が、事業委員長北林篤常務理事に本件議案の説明を求めた。同氏は、予め配布した資料をもとに事業報告について詳しく説明した。

以上につき議長が、議場に質問、意見を求めた後、その可否を議場に諮ったところ、全員一致をもって原案どおり承認可決した。

#### 第2号議案 平成23年度収支決算承認に関する件(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

議長が、役員信人事務局長に本件議案の説明を求めた。同氏は、予め配布した資料をもとに収支決算について詳しく説明した。

引き続いて監事を代表し、遠島敏行監事が、計算書類及び理事の職務執行状況を綿密に調査したところ、いずれも適正妥当であることを認めた旨を報告した。

以上につき議長が、議場に質問、意見を求めた後、その可否を議場に諮ったところ、全員一致をもって原案どおり承認可決した。

#### 第3号議案 平成24年度収支補正予算案承認に関する件

議長が、役員信人事務局長に本件議案の説明を求めた。同氏は、予め配布した資料をもとに平成24年度収支補正予算案について詳しく説明した。

以上につき議長が、議場に質問、意見を求めた後、その可否を議場に諮ったところ、全員一致をもって原案どおり承認可決した。

#### 第4号議案 理事及び監事の改選に関する件

議長が、組織委員長佐伯恒司常務理事に本件議案の説明を求めた。同氏は、当協会の理事及び監事の全員が任期満了退任するので、その改選の必要がある旨を述べた。そして、その選任方法を議場に諮ったところ、議場一致をもって議長の指名に一任することに、議長は、同氏に候補者を発表させた。そして、議長は、下記の者をそれぞれ指名し、これらの者についてその可否を議場に諮ったところ、満員異議なくこれを承認可決した。

なお、被選任者らは、いずれもその就任を承諾した。

理事	海部 俊樹(重任)	北林 篤(●)	今泉 和久(●)	坂本佐智子(●)
	小坂 憲次(●)	佐伯 恒司(●)	岡本 浩二(●)	伊藤 篤志(●)
	福留 強(●)	徳竹悠美子(●)	菅谷 守(●)	加藤 誠(●)
	鈴木 萬司(●)	池田 眞一(●)	眞鍋 義康(新任)	
	北林 豊(●)	吉崎 裕幸(●)	大木本正次(●)	監事 遠島 敏行(重任)
	岩間 昌一(●)	山崎 照登(●)	藤澤 賢治(●)	丹羽 正夫(●)

#### 第5号議案 公益法人制度改革の報告に関する件

議長が、総務委員長岩間昌一常務理事に本件議案の報告を求めた。同氏は、公益法人制度改革に伴う移行に関する当協会の現状につき、公益社団法人への移行に向けて、手続の準備中である旨の報告をした。

### 9. 閉 会

以上をもって、社団法人大正解協会第39回通常総会の議案の全部を終了したので、議長は、議場にその協力を謝し、降壇した。そして、総務委員長岩間昌一常務理事が閉会を宣した。

上記決議を明確にするため、議長及び議事録署名人は次に署名押印する。  
平成24年6月6日

社団法人大正解協会 通常総会

議 長	北 林 豊	印
議事録署名人	鈴 木 萬 司	印
同	岡 本 浩 二	印

# 正味財産増減計算書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

## I 一般正味財産増減の部

### 1. 経常増減の部

#### (1) 経常収益

基本財産運用益	9,529円
受取入会金	202,000円
受取会費	29,523,000円
全国生涯学習フォーラム(演奏会)	0円
100年記念演奏会	10,000円
100年記念演奏会 入場券	2,090,000円
国民文化祭	0円
全国子ども大正琴コンクール	0円
補助金収入(日本財団)	4,320,000円
雑収益	265,342円
出版物収益	7,560円
経常収益計	36,427,431円

#### (2) 経常費用

##### ① 事業費

全国生涯学習フォーラム(演奏会)	11,100円
イベント助成費	200,000円
全国子ども大正琴コンクール事業	2,486,628円
学校等における大正琴普及事業	3,341,382円
普及功労者表彰事業	693,880円
協会主催講座・講演会事業	272,082円
地域講座等助成費	200,000円
指導者研修会	327,935円
100年記念演奏会	10,874,014円
調査研究事業	1,156,564円
機関紙発行	187,760円
パンフレット	0円
ホームページ制作	133,035円
事業費用計	19,884,380円

##### ② 管理費

管理費用計	15,564,802円
経常費用計	35,449,182円

### 2. 経常外増減の部

#### (1) 経常外収益計

0円

#### (2) 経常外費用計

0円

当期経常外増減額

0円

当期一般正味財産増減額

978,249円

一般正味財産期首残高

38,852,499円

一般正味財産期末残高

39,830,748円

## II 指定正味財産増減の部

当期指定正味財産増減額

0円

指定正味財産期首残高

0円

指定正味財産期末残高

0円

## III 正味財産期末残高

39,830,748円



# 平成23年度収支計算書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
事業活動収入計	36,427,431円
2. 事業活動支出	
事業費支出計	19,884,380円
管理費支出計	15,443,226円
事業活動支出計	35,327,606円
事業活動収支差額	1,099,825円
II 投資活動収支の部	
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0円
2. 投資活動支出	
投資活動支出計	0円
投資活動収支差額	0円
III 予備費支出	0円
当期収支差額	1,099,825円
前期繰越収支差額	12,309,985円
次期繰越収支差額	13,409,810円



# 貸借対照表

平成24年3月31日現在

I 資産の部	
1. 流動資産	
流動資産合計	13,888,933円
2. 固定資産	
基本財産合計	25,000,000円
その他の固定資産合計	1,434,910円
固定資産合計	26,434,910円
資産合計	40,323,843円
II 負債の部	
1. 流動負債	
流動負債合計	493,095円
III 正味財産	
1. 指定正味財産合計	25,000,000円
2. 一般正味財産合計	39,830,748円
正味財産合計	39,830,748円
負債及び正味財産合計	40,323,843円



## 平成24年度 理事長表彰受賞おめでとうございます

社団法人大正琴協会「表彰規程」に基づき、平成24年6月6日(水)下記の皆さんが受賞されました。  
(以下敬称略)

### 規程2条3項 当協会の名誉を高めるにふさわしい功績があった者(1名)

豊久 紘榮 広島県廿日市市大野郷

### 規程2条4項 指導者として永年にわたり大正琴音楽の指導に尽力した者(18名)

岡田 順子	三重県伊賀市柘植	大迫 聖子	鹿児島市喜入町
川口 榮子	三重県伊賀市緑ヶ丘	榎井しづ子	愛知県新城市西新町
鶴見 秋子	三重県名張市桔梗が丘	樋口 昭子	神奈川県中郡大磯町
百武 裕子	新潟県五泉市木越荒屋甲	丸山 ユキ	栃木県足利市朝倉町
高橋 久子	広島市佐伯区海老山南	霜田 幸子	群馬県吾妻郡長野原町
江口 恵子	広島県呉市警固屋	竹原 明美	山梨県北杜市長坂町
波邊 幸子	佐賀県唐津市和多田	増井 俊子	滋賀県高島市勝野
池田千鶴子	長崎県佐世保市日野町	山田 純子	広島市東区牛田中
川上 智子	大分市政所	小山なぎさ	広島市佐伯区美の里

## 大正琴普及事業報告

平成19年から開始した次世代への継承を目指して学校等で行なった大正琴普及事業は、昨年度で5ヵ年計画を終えました。皆様の熱心な活動により、素晴らしい成果を得ることができましたことに厚くお礼申し上げます。

### 1. 大正琴寄贈について

5年間の目標1,264台に対し、全国で1,344台の寄贈となり、達成率は106%でした。

### 2. 講習事業について

5年間の目標講習学校数259校、講習回数5,820回、受講生徒数5,682人に対し、校数296校、回数6,570回、生徒数5,501人の実績となり、達成率はそれぞれ114%、113%、97%でした。

受講生からも大正琴が楽しかったとの手紙を多数いただいております。

### 3. その他の効果について

中日新聞、デーリー東北、琉球新報などの新聞や地元広報誌に紹介され、大正琴のPRに繋がったほか、受講生達が地元の行事や社会福祉施設等で大正琴の演奏を披露し、子ども達の社会参加と社会貢献を促すことができました。



## 今後のスケジュール予定

1. 平成24年度全国子ども大正琴コンクール  
次世代に向けて大正琴文化を広めるためのイベントです。  
日時 平成24年8月25日(土) 13時から  
会場 ウイルあいち ウイルホール  
名古屋市東区上堅杉町1番地  
TEL 052-962-2511
2. 第40回通常総会  
日時 平成24年12月3日(水) 13時予定  
場所 ガーデンパレス大阪  
大阪府淀川区西宮原1-3-35  
TEL 06-6396-6211
3. 第24回定期演奏会  
日時 平成25年2月3日(日) 開演11時予定  
場所 高槻現代劇場 大ホール  
高槻市野見町2-33  
TEL 072-671-1061



## 身近な健康体操をしましょう

年を重ねるにつれ、誰も体も動かすのも歩くのも億劫になりがちです。年齢とともに下半身は下がり、お腹も出てきます。メタボリックシンドロームの診断基準では、胴囲が男性85cm以上、女性が90cm以上とされています。肥満、高血圧、糖尿病、関節の痛み等々、多くの人が健康に関する悩みを持っています。

こうした悩みを少しでも解消するために、身体を動かしてみましょう。

### 1. まず歩く

ある調査によると、70代以上の人は20代の人と半分程度しか歩かないという結果が出ています。健康は足腰から。歩数のアップが老化防止に効果がありそうです。目標を決め、毎日自宅の周辺を無理せずマイペースで歩きましょう。万歩計があると歩数が確認できるので、継続の励みになります。

### 2. ふとんの上でもトレーニング

ふとんの中でも軽い体操には向いています。まず仰向けになり、かかとを付けたまま背中を浮かさないようにしてお尻を持ち上げます。お尻はさほど高く持ち上げなくても構いません。

この動きを10回以上繰り返すことも腹筋や背筋のトレーニングになります。

次に、仰向けに寝たまま両膝を立てます。その体勢からゆっくり息を吐きながらおへそをのぞき込むように上体を丸めます。完全に上体を起こす必要はありません。今度はゆっくり息を吸いながらもとの体勢に戻します。これを10～20回繰り返します。

このほか、仰向けの体勢から膝を抱え、身体全体の向きを左右に変えるのも腰と背中のマッサージ効果が期待できます。

※何れの体操も、高血圧などの健康状態によっては適さないものがあります。無理をせず、自分に合った身体の動かし方を見つけましょう。

## トピックス

### 東京駅とスカイツリー

東京駅丸の内駅舎は大正3年に東海道本線の起点として当時最高の建築技術を集結して3階建ての洋式建築駅舎として開業しましたが、太平洋戦争の空襲により3階部分やドームが焼失してしまいました。

駅舎を管理するJR関東は、2003年に国の重要文化財に指定されたことを期に駅舎の復元を行い、このほど新駅舎での営業が始まりました。

約100年前にタイムスリップした駅舎は、南北のそれぞれのコンコースに八角形のドームを配し、内側には十二支の辰や虎のレリーフがあしらわれているほか、復元にあたり瓦の一部には東日本大震災被災地の登米市産のスレートも使われました。そして、この10月には150室あるホテルも開業するそうです。

一方、今年東京の目玉と言えば東京スカイツリー。5月22日に開業した東京スカイツリーは、634mの世界一の高さを誇る電波塔です。ツリー内には2箇所の展望室があり、開業当初は事前予約のみの入場だったため、入場券はプラチナチケットとして話題になりました。

周辺には東京スカイツリータウン、東京ソラマチ、東京スカイツリーイーストタワーなど、観光や商業の拠点も充実し、年間600万人もの来場者が見込まれており、その経済効果は年間1,500億円以上と言われています。

大正琴誕生100周年の昨年は、東日本大震災が発生し、平凡な日常がどんなに幸せなことか改めて考えさせられた一年でもありました。

大正琴誕生100年の今年、古き良き時代の象徴である復元された東京駅と、未来への希望の象徴である東京スカイツリーが時を同じくして開業したことは、大正琴の歴史を大切に、今こうして大正琴を楽しむことに感謝しつつ、未来へ向けて次世代への継承に力を入れている大正琴の現況を表しているように感じます。

## 会員だより

### 大船渡慰問コンサートに参加して

昨年の8月6日大船渡市での慰問コンサートに参加させていただきました。

2011年3月11日の大震災、毎日のようにテレビ、新聞でその惨状を目にしました。でも、その様子はあまりにも酷く、まるで映画のワンシーンのようで現実のものとは思えませんでした。ところが、実際大船渡を訪れてみると、それは本当に目の前に広がっており愕然としました。

私達も被災地の皆様が少しでも元気になっていただきたいと参加しましたが、会場の方々にいったい何を語りかければよいのか、どう演奏すればよいのかわからなくなりました。でも一同笑顔で元気を届けようと、ただ必死に演奏しました。

演奏後、会場の皆さまから温かい拍手、笑顔、お礼の言葉など沢山いただき被災された方たちを励ますためのコンサートであるはずなのに、逆に元気や力をいっぱいいただきました。

これから大正琴のメロディーにのせて、大船渡でいただいたパワーを多くの方に届けていきたいと思いました。そして、このメロディーがどんどん紡がれて、大きな“絆”となり日本中につながっていきますように……。

夢城流大正琴 豊橋支部  
ハーブクィーンズ 山内 さえ子



## 「大正琴の日」制定について

大正琴が1912年(大正元年)の9月9日の重陽の節句(菊の節句)に発売となり、今年で満100歳を迎えます。

大正琴協会では、日本の文化として大正琴の一層の普及を目的に、昨年12月に行なわれた第38回通常総会で毎年9月9日を「大正琴の日」と決めました。

会員の皆様にも、この記念日を地域社会に周知していただくための積極的なPR活動をお願いできれば幸いです。

### <大正琴の歴史>

- |               |  |
|---------------|--|
| 1912年(大正元年)   | 名古屋市長森田吾郎(本名:川口仁三郎)氏が考案。重陽の節句(菊の節句)に発売となったことから当初「菊琴」とも呼ばれ、大正3年頃から数年間大ブームとなる。 |
| 1935年(昭和10年)頃 | 主に東南アジア方面への輸出が盛んに行なわれたが、戦争の足音とともに生産が途絶える。                                    |
| 1960年(昭和35年)頃 | 村田英雄の「人生劇場」で作曲者の古賀政男が大正琴を弾き再び街に大正琴の音色が戻る。                                    |
| 1980年(昭和55年)頃 | 従来のソプラノ音域の大正琴に加え、アルト・テナー・ベース音域の大正琴が開発され、再び大ブームに。流会派もこの頃から激増する。               |
| 1993年(平成5年)   | 社団法人大正琴協会設立。   |
| 2009年(平成21年)  | 「全国子ども大正琴コンクール」始まる。  |
| 2011年(平成23年)  | 「大正琴の日」(9月9日)制定。   |
| 2012年(平成24年)  | 大正琴誕生100年記念合同演奏会開催。<br>「大正琴の日」ロゴマーク制定(予定)。                                   |



### 「大正琴の日」ロゴマーク間もなく決定!

大正琴協会では、今年「大正琴の日」のロゴマークを公募し、現在選考に入っております。

間もなく正式決定し、今年の「大正琴の日」である9月9日(日)に、当協会ホームページで発表予定です。お楽しみにお待ちください。

### 編集後記

5月21日に日本の広い地域で金環日食が見られました。皆様の中にも観察用のグラスを購入し、空を見上げた方も多いいと思います。その日のニュース番組では何度もその光景が放送され、こうした話題がトップニュースになる平穏な一日の幸せを改めて感じました。

東日本大震災発生から1年以上が過ぎましたが、未だに不自由な生活を強いられている方がたくさんいらっしゃいます。

関東大震災の復興とともにあった大正琴が、再び東日本大震災の被災者の心の支えとなることを願って止みません。